

障がい者の社会への“完全参加と平等”を！

ときめきFukuoka

2025.7
No.282



個人情報を守るもの、そして生かすもの

“避難行動要支援者名簿”と“見守りマップ”

- 05 福障協だより「令和7年度第18期定期総会開催」
- 07 身障協だより「第70回日身連大会」
- 10 7月・8月の企画展示情報～福岡市介護実習普及センターより
- 11 参加・開催への資金協力をお願い

個人情報 は 守るもの、そして 生かすもの

「避難行動要支援者名簿」と「見守りマップ」



今回の特集は、5月に開催された「東区地域防災フォーラム2025」の筆録です。基調講演とパネルディスカッションの一部を掲載しました。

【基調講演】

博多あん・あんリーダー协会会长 因幡 那水氏

因幡 那水

私が防災意識を強くしたきっかけは、重い障がいを持った長女が存在でした。東日本大震災や熊本地震級の、大規模自然災害が発生した際に、娘のような障がい児・者をどのように守れるのか。不安に苛まれる中、「博多あん・あん塾」（福岡市主催の防災士養成講座）の事を知り受講。そして防災士を取得しました。

防災士の基本理念は「自助」「共助」「協働」です。「自助」つまり自分の命を守ることです。娘は生活の全てで介助が必要なため、私の場合、自分の身を守ることが、娘の生活を守る事になります。

娘は居住区外の特別支援学校へ通っています。また、福祉サービスを利用していますので、地域との関わりが少ないです。ですから私は、4月から

地元の自主防災組織の部長を引き受ける事にしました。今実感している事は、地域との繋がりの大切さです。「人と人との繋がりがこそ命を守る」と日々痛感しています。

また私は、特別支援学校のPTA会長も務めています。本校の約170名の児童・生徒のご家族へ、災害時に備えて最低1日分の防災セットを用意してもらおうようお願いしています。ご家族への「防災リュック」をPTAの予算から運用しています。

娘には、落ち着くグッズやお気に入りのアイテムを入れてあります。私や、助けが到着するまで、少しでも心の安定につながるように活用してもらっています。

実際災害が起きたら、「困っているのはみんな一緒」です。障がい者だけが被災者ではありません。また、「大丈夫ですか？」という問いは、「大丈夫です」と返してしまいがちなので、「のどは乾いていませんか？」など、具体的な声掛けが相手の助けになります。

現在個人情報の取り扱いがとて難しくなりました。情報は守るだけで

なく、活かしてこそ価値があると思います。信頼できる関係性の中であれば、情報の活用は大いに可能です。

私達障がい者の親の立場は、「もっと知ってほしい」のです。仮に、私達が被災した時は、圧倒的に助けてもらう側になります。ですので先ずは「知ってほしい」という思いでいっぱいなのです。

【パネルディスカッション】

テーマ「誰一人取り残さない災害の備え」

コーディネーター

松永 昭吾氏（博多あん・あんリーダー协会会长）

パネラー

山中 一男氏（香住ヶ丘校区自治協議会会長）

亀田 伸裕氏（東区社会福祉協議会会長）

堺 眞利子氏（東区民生委員会副会長）

因幡 那水氏（博多あん・あんリーダー协会会长）

中里 理香氏（博多あん・あんリーダー会 東支部会長）

博多あん・あんリーダー协会会长 因幡 那水氏

松永 テーマに沿って、障がい者や高齢者への取り組みについて、事例を交えてご紹介頂きたいと思います。まずは、地域防災における皆さんの役割と課題についてお願いします。

山中 香住ヶ丘校区は和白干潟海岸に沿った丘陵地に位置しており、世帯数1万を超え、人口約2万人と東区内で2番目に多い校区です。平成26年から「各町内会に1名以上の防災士を配置する」という目標を立て、今年3月時点で17町内会が目標を達成しています。この防災士の皆さんを中心に校区全体の防災訓練を行っています。

一方、子ども達を対象とした「防災お泊まり体験」など、公民館を活用した防災教育も実施しており、今年で3年目です。課題は、台風・大雨・地震などの災害種別ごとの避難所開設について、校区内での周知と連絡体制の構築が不十分な事です。

亀田 「ふれあいネットワーク」を通じて、支援が必要な障がい者や高齢者の見守りや声かけ、訪問活動を行っています。日頃の関わりが、災害時の共助の基盤となり、迅速な指示や支援に繋がると考えるからです。しかし、町内によっては民生委員の数が不足、見守り体制が十分に機能しないと

ころもあります。結果、高齢者との日常的な関係が希薄になっているのが課題です。

堺 災害時要支援者名簿を活用し、障がい者や高齢者夫婦、一人暮らしの高齢者などへの訪問・見守り活動を行い、支援が必要な人を行政に繋げる取り組みをしています。「ふれあいネットワーク会議」で、町内会長を班長とし、「見守りマップ」を作成。支援対象者を地図上に可視化し、支援体制を整えています。民生委員は過去の地震災害（新潟中越沖地震など）で住民の安否確認に実績がありますが、東日本大震災で犠牲者が出ており、今では大規模災害時は「まず自分と家族の安全確保を優先する」という方針になりました。その上で、避難時には自ら先に避難しながら、大声で周囲に避難を呼びかける。これが多くの命を救う行動に繋がると考えています。

因幡 博多あん・あんリーダー会では、各区の7支部にわたり、計240名が活動しています。最近では世代間の幅も広がり、女性会員も増えてきました。現在の課題は情報の取り扱いです。現代のニーズに即した形で、情報をどのように活用するか模索中です。情報を生かすのは容易ではあ

りませんが、それだけの価値があると思います。

中里 各校区のアドバイザーとしての参加や、防災研修を実施しています。私は地域防災では、防災士として活動しています。本業はケアマネジャーです。校区内の介護事業所ネットワーク「なみきつかながりネット」で、なみきの仲間と地域貢献を考えています。

松永 避難行動要支援者名簿の運用について教えてください。

堺 障がい等級1・2級の方には市から連絡があり、名簿への掲載について同意を得た上で台帳に登録されます。同意しなかった方は掲載されません。そのため、実際には車椅子利用者や透析を受けている方でも、名簿に載っていないケースもあります。名簿は施錠された倉庫に保管され、社協会長や町内会長が閲覧できます。民生委員も自分の担当区域の情報は確認可能です。

松永 では、実際の災害時には、どのような指揮系統になるのでしょうか。

山中 名簿は世帯単位でなく、個人

単位での登録のため、町内会としては、より実態に即した「見守りマップ」を作成しています。このマップには、障がい者や高齢者のいる世帯を世帯単位で記載し、町内会と民生委員が情報を共有することで、より現場に即した対応が可能になります。

松永 見守りマップの具体的な内容を教えてください。



「見守りマップ作成の様子」(写真提供:東区社会福祉協議会)

山中 ふれあいネットワークの仕組みにより、次のような対象世帯をマップに反映しています。（高齢の）一人暮らし世帯、介護が必要な世帯、障がいのある方がいる世帯、子育てに不安のある世帯です。町内会長や民生委員がこれらの世帯を日常的に把握・共有し、対象者を抽出。その後、地域ケア会議で、町内会長・民生委員・いきいきセンターと一緒に、災害時の対応方法や声かけについて話し合いながらマップを作成します。完成後は町内会や校区内で共有されます。

松永 こうした「見守りマップ」を、区民・市民全体で理解し、統一、普及していくことが重要ですね。最後に皆様からひと言お願いします。

山中 「身体が不自由だから避難所には行かない」という声をよく聞きます。ですので、地域に馴染みのある公民館に多くの備品を集め、安心して避難できる環境作りが重要と考えています。

亀田 「ふれあいネットワーク」による住民同士の支え合いを紹介しました。さらに、事業所との連携を図る「事業所ネットワーク」も、複数の校区で展開されています。地域防災の中

でも、こうした協力体制をより一層強化していきたいです。

堺 民生委員としては、困っている方々を行政に繋げる役割に徹し、今後も「良き友人、良き隣人」として地域活動を続けていきたいです。

因幡 「博多あん・あんリーダー会」の「あん・あん」は、「安心・安全」です。防災の基本は、安心感と安全な環境を提供すること。笑顔の繋がりを大切に、かけがえない命を守ってまいります。

中里 東支部の防災意識向上と地域貢献のために、各校区の行事に積極的に参加し、「顔の見える関係性」を築いていきたいです。

松永 東区は高潮や津波など、多様な災害リスクを抱える地域です。それぞれを正しく理解し、備えることが何より重要です。東区一丸となって「誰一人取り残さない災害の備え」に取り組んでいきましょう。



中里 理香氏

山中 一男氏

堺 眞利子氏



松永 昭吾氏

因幡 那水氏

亀田 伸裕氏

【表紙にご協力いただいたみなさん】

前列右から

東区民生委員会副会長

堺 眞利子 様

博多あん・あんリーダー会会長

因幡 那水 様

博多あん・あんリーダー会東支部会長

中里 理香 様

後列右から

東区社会福祉協議会会長

亀田 伸裕 様

博多あん・あんリーダー会東区支部会員

松永 昭吾 様

ご協力ありがとうございました。

